

研修生活を振り返って

小助川 紗弥



市立釧路総合病院で初期研修医としてお世話になっております。小助川と申します。

この病院を研修先を選んで一番良かった点は、とても暖かい人が多いところだと思います。研修

先の科の先生方が熱心に教えてくださるのはもちろん、ローテーションしていない科や、すでに研修を終えた科の先生方も、研修医をすごく気にかけてくださっていて、落ち込んでいるときに、心配や励ましの声をかけて頂き、何度も支えられました。

札幌を出るのも、一人暮らしをするのも初めてだったので、心細く不安でしたが、学生を交えて厚岸牡蠣祭りに行ったり、ママチャリレースや北海盆踊りなどのイベントに参加して他職種の方々と交流

できたり、先生方と一緒に花火をみたり、飲み会したりと、楽しい思い出をたくさん作ることができ、寂しいと思う暇がありませんでした。

また、研修医が少ないため、症例や手技の取り合いが少ないのもこの病院の研修の良い点の一つです。ライバルと切磋琢磨したいタイプの人には物足りなかもしれませんが、自分のペースで研修できるという魅力があり、自分に合っていると感じています。症例の数やレパトリーは豊富で、将来の志望科に有用そうな症例や手技を重点的に当ててもらってもでき、有意義な時間を過ごせました。

研修期間も残りわずかとなってきましたが、釧路の医療に貢献しつつ、知識と技術を身につけていきたいと思います。今後もどうぞよろしく願いいたします。

エキスパート紹介 Part.15



皆さんこんにちは、皮膚・排泄ケア認定看護師の稲垣です。認定看護師を取得してから早いもので10年が経ちました。その間、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師も2名増え、3名で活動を行っております。

皮膚・排泄ケア認定看護師の主な活動は、褥瘡（床ずれ）などの創傷ケア、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）ケア、失禁ケア、スキンケアなど、皮膚のトラブルや排泄に関わるケアを専門的な知識と技術に基づいて提供する事です。皮膚・排泄ケア認定看護師の領域は広いですが、3名で協力し院内や地域の知識や技術が向上するよう活動を行っています。

私が主に行っている「創傷ケア」の中でもスキンケアは、高齢化社会を迎えた現在ケアを提供する患者さんが100歳の方も珍しくはなくなってきています。乾燥や脆弱な皮膚により使用する医療用テープ1つでもトラブルの原因になることがあります。患者さんやご家族が快適な生活を送ることができるよう病棟スタッフと考へ、ケアを行っています。

また、褥瘡に関しては褥瘡の予防や治癒の促進を目的に褥瘡リンクナースを対象とした月1回の学習会や週に1度の褥瘡回診を行っています。褥瘡の発生は減らす事は難しいですが、これからは褥瘡予防を目標にスタッフやコメディカルと協力しケアを行っていききたいと思います。

皮膚・排泄ケア認定看護師 稲垣 紀代子



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

第22号：平成30年1月4日発行

ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

皆様にはあらためて日頃の医療連携に対するご協力に心より感謝申し上げます。

さて、来年度は診療報酬と介護報酬の同時改定、さらには、第7次医療計画と第7期介護保険事業計画などもスタートすることを踏まえ医療・介護政策における「惑星直列」の年とも言われ、一気に2025年以降の医療と介護体制の構築が始まろうとしています。診療報酬改定は国の逼迫した財政のもとではマイナス改定ともささやかれ、病院経営は益々厳しいものとなりそうです。

医療と教育は地域存続の必要条件と思っています。（十分条件ではありません。）直面する人口減少社会の到来に対し、国や他力を頼らず、私たちが自身の問題として対処していかなければなりません。このような大きな時代の変化の中で当院が果たすべき役割は釧路地域の33万人の住民の皆様が安心して生活をおくれるように、高度医療提供体制の継続と進化に努力することと考えております。そこで、新たな時代の医療を守るため新棟建築計画が進行中です。まずは立体駐車場の整備が完了し、おおよそ300台が収容可能となりました。今後も建設期間中、皆様には何かとご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科 理学療法士 中川 裕貴

リハビリテーション（リハビリ）の語源は、Re（再び）habilis（適した状態にすること）といわれています。

リハビリ＝機能回復訓練というだけでなく、「本来あるべき状態への回復」などの意味を併せ持っています。

当院の医療技術部リハビリテーション科は、急性期病院としての治療と並行して患者さんの心身の機能低下を最小限にとどめ、残された機能を最大限に活かせる様に援助しています。リハビリは理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）の3部門があり医師の指示のもとに行われています。看護師や栄養士、医療連携室など多職種との情報交換、連携を行いながら、チームとして患者さんをサポートしています。リハビリ室まで来る事が困難な患者さんには病室でのリハビリを行う等、一日も早い退院や社会復帰ができるよう取り組んでいます。高齢化が進み、リハビリに対するニーズは年々増加傾向で、脳卒中、整形疾患中心から、呼吸器、循環器、小児、がん等、多岐にわたる分野に関わり日々知識・技術の取得に努めています。特に早期離床の重要性が高まり、集中治療室（ICU）や手術前後等、早期からの介入も積極的に行っています。

その他にも、緩和ケアやNST（最良の栄養療法を提供する為に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、ST等の職種を越えて構成された栄養サポートチームのこと）、医療安全等の院内活動や、隣接する高等看護学院や公立高校での授業、市内中学生の見学受け入れなど院外活動にも従事しています。



リハビリテーション室

科内の部門間でも情報交換が日々活発に行われています。以下にそれぞれの部門の紹介をしていきます。

【理学療法（PT）部門】16名

手足の動きや、それに伴う痛みを改善し、関節可動域、筋力、麻痺を回復させる練習を通して、寝返り・起き上がり・起立・歩行といった基本動作の獲得を促します。更に、その動作を日常生活や社会活動に生かし、良好な状態を維持し続けられるように日常生活の援助・指導をしていきます。

【作業療法（OT）部門】6名

日常生活に支障を来している方に対し、日常生活動作（ADL：食事、排泄、入浴、整容、衣服の着脱等）や仕事、社会参加への回復を目的に、身体の機能回復訓練、高次脳機能訓練、ADLや家事動作練習、生活環境の整備や自助具の紹介や指導を行い、退院後の生活に即した援助・指導を行っています。

【言語聴覚（ST）部門】4名

ことばによるコミュニケーションに問題がある方に対して相談や訓練、指導を行っています。また嚥下（食べ物等を飲み込むこと）が低下した方に対しては評価に基づき機能訓練や嚥下法、食物形態の調整をし、指導を行っています。更に当院では耳鼻咽喉科での各種聴覚検査にも関わっています。



医師、看護師、リハビリ、連携室とのカンファレンス

院内デイケアの活動について

院内デイケアを担当しております、精神科作業療法士の古村です。院内デイケアは6月から一般病棟で開始となったプログラムですが、なかなか皆さまの目にふれる機会がありませんので、今回この場をお借りして院内デイケアの活動について紹介させていただきます。

このプログラムは現在、毎週木曜日の午後に一般病棟に入院されている患者さんの日中活動として行っています。内容としては体操、レクリエーション、創作活動など様々ありますが、参加して何を行うかは患者さんの自由です。というのも、院内デイケアの目的がせん妄予防や生活リズムの改善、活動性の向上であり、また活動を通しての交流の場としても高齢患者の日中活動の場として利用していただきたいと思っているためです。

試行段階を終え本格的に開始することになりました。まだまだ課題は多いですが今後は回数を増やしていき、より効果的な活動を行っていきたいと思っております。今後は高齢患者だけではなく入院されている方の日中活動の場や交流の場になっていくことができれば、と思っております。一般病棟の看護師の皆様、一度のぞきにきてください。お待ちしております！



活動に季節感を取り入れています！

院内デイケアでの風景です。

